

令和2（2020）年度 事業報告書

★ 大阪工業技術専門学校

1. 学科別出願者、入学者数の状況

（令和3（2021）年5月1日現在）

学科名	区分	入学定員	出願者	入学者
建築学科		120名	120名(157)	109名(141)
建築設計学科		30名	32名(33)	30名(31)
設備環境デザイン学科 [募集停止中]		[25名]	一名(-)	一名(-)
インテリアデザイン学科		40名	41名(45)	36名(42)
大工技能学科		40名	44名(40)	42名(34)
ロボット・機械学科		40名	45名(51)	38名(44)
建築士専科		50名	32名(30)	31名(28)
Ⅱ部建築学科		50名	68名(47)	61名(43)
フレックス建築学科		40名	2名(7)	2名(7)
合 計		410名	384名(410)	349名(370)

（ ）は昨年度数

2. 就職の状況

① I 部 卒業生

（令和3（2021）年3月31日現在）

学科名	平成30（2018）年度				令和元（2019）年度				令和2（2020）年度			
	卒業者	求職者	内定者	内定率	卒業者	求職者	内定者	内定率	卒業者	求職者	内定者	内定率
建築学科	81	50	44	88.0	88	65	56	86.2	101	71	67	94.4
建築設計学科	25	22	20	90.9	14	9	9	100	22	17	15	88.2
設備環境デザイン学科	9	7	7	100	11	11	11	100	7	7	7	100
大工技能学科	41	34	34	100	31	31	30	96.8	33	32	32	100
インテリアデザイン学科	17	8	6	75.0	24	16	16	100	29	27	25	92.6
ロボット・機械学科	44	42	42	100	40	38	37	97.4	43	41	41	100
建築士専科	38	38	36	94.7	46	46	45	97.8	27	26	26	100
合 計	255	201	189	94.0	254	216	204	94.4	262	221	213	96.4

※内定率は、内定者÷求職者で、単位は%です

3. 教育行事

1) 企業研修 夏季:全学科合計:未実施(R1:126名、H30:97名)

春季:全学科合計:161名(R1:21名、H30:60名)

※ 夏季または春季休暇期間中の1~2週間で実施

※ 緊急事態宣言の発令に伴い、令和元(2019)年春季実施分は期間途中で中止、令和2(2020)年、夏季は中止とした

2) 保護者会の実施

➤対面実施に代えて「進路説明会」を動画配信

3) 大阪府「あすなろ夢建築」コンペへの参加

➤令和2(2020)年度1名準グランプリ、1名優秀賞、1名佳作受賞

4) 社会に向けたモノづくり実践事業

➤大工技能学科の作品寄贈等学外実習は中止、学内実習に置き換えた

5) ロボット競技会の実施、及び全国専門学校ロボット競技会への参加

➤令和2(2020)年度の開催中止(主催者)

4. 教育改革等

令和2(2020)年4月7日の『緊急事態宣言』により本校も感染拡大防止の観点から施設利用等の制限を受けることになり、オンライン授業への切り替えが急務となった。開講は遅れたものの、いち早くmoodleによるオンデマンド型オンライン授業をスタートさせ、準備・訓練期間を経て5月下旬よりZoomによる双方向型オンライン授業を開講するに至った。これらのことで、授業支援システムのコンテンツは一段の充実となり、オンラインでの課題提出や試験など新たな活用法を見出すことができた。遠隔地教育について一定の知見が得られたことは教育上大きな成果であった。オンライン授業においても目指す教育効果を得られるよう教授技術の開発、また、電子黒板とオンライン授業などICTを相互活用する教育技法の検討が急がれる。

例年であれば入学直後に実施していた基礎学力テストは時期を遅らせて行うことになり、学力低位者対象の基礎学力養成講座は後期にオンライン授業で実施した。毎回ほぼ全員が参加しており、対面指導が減った中でも除中退の減少に多少の効果が図れたと推察する。業界ニーズとしてのBIM教育は夜間部含め建築系学科に拡充した。コロナ禍でPC教室運用の都合もありスケジュールを圧縮しての実施になったことは否めないが、卒業制作や学外コンペに於いて積極的活用されて効果を発揮。

広報、求人企業へのアピール材料としても有効である。

次に、キャリアデザイン授業の一部である「進路基礎講座」は社会人マナーやSPI対策、学生の進路意識向上や活発な進路活動を促すことに効果を上げている。「企業研修」はコロナ禍で縮小や中止した企業もあったが、そのような中でも多くの学生がエントリーした。これは企業側が採用活動の一環として重視する傾向が一因と思われる。企業研修は職業意識の強化や適性確認等、効果的に進路意識向上を図る術でもあり、引き続き企業研修参加への継続的な指導を行っていく。

最後に、多くの学外実習が中止となり、なかなか出口の見いだせない状況下の中、職業実践、産学接

続を実現すべく、各学科で形を変え可能な限り、企業、行政等と連携した教育行事を行った。

(1) 資格取得強化事業

新入生全員（リカレント学生の一部を除く）に対して実施している『ビジネス能力検定3級・2級（文科省後援）』と学科の授業科目に対応した『福祉住環境コーディネーター3級』、『2次元CAD利用技術者2級』及び建築士専科が100%合格を目標としている『2級建築士試験（国家資格）』の合格率は下記の通りである。

II部建築学科・フレックス建築学科を除く全学科（1年生）

（令和2.12.6実施）

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
ビジネス能力検定3級	149名	126名	84.6%	88.7%
ビジネス能力検定2級	24名	12名	50.0%	74.8%

建築学科A・B・C・Dクラス、建築設計学科（1年生）

（令和2.11.22実施）

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
福祉住環境コーディネーター3級	78名	29名	37.2%	66.8%

ロボット・機械学科（1年生）

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
2次元CAD利用技術者2級	12名	4名	33.3%	55.7%

建築士専科

2級建築士試験					
	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率	全国平均
学科試験（1次）	28名	21名	7名	75.0%	41.4%
製図試験（2次）	20名	15名	5名	75.0%	53.1%
総合	28名	15名	12名	53.6%	26.4%

☆ エクステンション事業

資格取得支援事業として、主に卒業生及び在校生を対象に各種試験対策講座を実施した。

・講座事業

資格試験対策講座	受講期間	受講時間	受講者数
2級建築士合格講座（製図）	2か月	60時間	18名
第2種電気工事士講座（筆記&技能）	4か月	65時間	未開催
合計			18名

*積水ハウス 設計マインド研修

1年次導入版として、10/24、31、11/9に入社1年目社員150名に研修（講習）を実施した。

※例年、4年次中級版として、入社4年目社員に対する研修（講習）を実施しているが、令和2（2020）年度は緊急事態宣言の発令に伴い開催中止となった。

☆ 校友会の活動状況

1. 第83期 総務会をオンライン(Zoom)で621教室にて開催（令和2（2020）年11月21日）
2. 新型コロナ対策在学生支援事業：
 - ①全在校生に5千円のQUOカード支給及びお食事券1,000円を支給。
 - ②留学生に3万円のQUOカード支給。
 - ③校友会支援募金を実施し、1,394,000円を学園に寄贈。
 - ④消毒液ディスペンサー3台を学園に寄贈。
3. 支部活動を推進する為に各支部から予算請求に対して助成金を支給したが、支部活動では新型コロナ対応として、次の支部行事の中止が余儀なくされた。（奈良・三重・中部支部：伊勢の旅、兵庫支部：竹中大工道具館見学、中部支部：BIM講習、京滋・京都支部：沖島探索）
4. 第19回ビジネスサロンの開催（OCTが実施する文科省事業：コネクティッドホームについて）
5. 校友会奨励賞の審査及び表彰と金一封を贈呈（3組を卒業式にて）
6. 校友会祝意として表彰と金一封を贈呈（①京都府Woodyコンテスト、②つやまロボコン、③ヒト型レスキューロボコン、④MISUMIロボコン、⑤大阪府「あすなる夢建築」、⑥文部科学大臣賞）
7. 資格取得者（15名）への報奨金贈呈及び校友会ネットワーク推薦制度への謝礼（7組14名）
8. 新外国留学生歓迎交流会・ドラゴンボート選手権大会・学生自治会との協調行事は中止となる。

★ 大阪リハビリテーション専門学校

1. 入学試験の状況

学科名	区分	入学定員	志願者	合格者	入学者
Ⅱ部理学療法学科（3年制）		40名	60名 (46)	46名 (36)	43名 (31)
Ⅱ部作業療法学科（3年制）		40名	48名 (49)	40名 (38)	36名 (33)

（ ）は昨年度数

2. 国家試験の合格者数の状況

専任教員による国家試験対策授業、校内模擬試験、外部講師による直前対策セミナーを実施し、理学療法学科に関しては、3年連続合格率100%を達成するなど、きめ細やかな指導の結果、両学科ともに全国平均を大きく上回る合格率を達成した。

（1）OCRの合格状況

	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士	26名	26名	100.0%
作業療法士	25名	23名	92.0%

(2) 全国の合格状況

	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士	11,946名	9,434名	79.0%
作業療法士	5,549名	4,510名	81.3%

3. 就職の状況

求人状況は理学療法士1,998件、作業療法士1,821件であった。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、求人数は昨年度よりも減少したが、両学科ともに、専任教員が学生指導を行うと共に、臨床現場におけるネットワークを最大限活用し就職支援を行った結果、下記の通りの結果となった。

	卒業生数	国家試験合格者数	専任職としての就職者数	
			資格に係る業	その他
理学療法学科	26	26	22	0
作業療法学科	25	23	21	0

理学療法学科では、国家試験合格者のうち、活動中4名。

作業療法学科では、国家試験合格者のうち、活動中2名。

※コロナ禍で求人を早期に締め切る病院や施設が増え、年明け以降の求人が減少している中、希望地域や分野への就職に拘り、活動を継続している。

4. 教育指導

本校では、令和2(2020)年から新型コロナウイルス感染症対策の一つとして遠隔講義(オンラインやオンデマンド)を取り入れた。令和3年(2021)度以降についても教育上必要があり、かつ十分な教育効果をあげることができると認められた科目については、コロナ対策以外でも恒常的に取り入れていくことになっている。

理学療法学科では、開講時間を月曜日から土曜日の18時からに設定しているが、作業療法学科については、平日の上記の開講時間に加え、16時20分からと土曜日の9時から開講する時間選択制を設け、柔軟な時間割設定を取り入れており、効果については継続して検証を重ねている。

退学者数の抑制対策として、成績不良者には開講時間前の登校の義務化や個別の課題学習への取り組みに加え、土曜日の昼間には技術未習得者に対する指導を行った。これに加えて、臨床実習では途中リタイヤを無くすため、専任教員が定期的に実習先を訪問し、学生指導を行うなどのサポートも実施した。

また、個別面談を1年に2回実施しているが、1年生の前期に退学が多い事に鑑み、1年生は前期に個別面談を2回実施し、各学生の状況把握を強化するようになり、保護者とも対面や電話面談で学生状況についての報告を行うなどの連携を取り、退学を防ぐことに注力している。

教育課程の面では、両学科ともに職業実践専門課程として学校関係者評価委員会を1回、教育課程編成委員会を2回開催し、外部委員の意見を取り入れながら検討を重ね、教育方法の改善等を行った。

5. 学習環境（施設）の整備について

- ・2号館・喫煙室を教材作成室へ改修する工事を行った。

★ 大阪保健医療大学

1. 入学試験の状況

(名)

区分 専攻名	入学 定員	志願者									入学者
		総合型 選抜	学校 推薦型	一 般 (センター併用)	チャ レンジ	社 会 人	指定校 推薦	一般 (ST)	第一 次 第二 次 (研究科)	合 計	
理学療法学 専攻	70	81 (87)	90 (103)	38 (58)	26 (29)	0 (1)	19 (10)	—	—	254 (288)	79 (84)
作業療法学 専攻	30	15 (26)	23 (33)	6 (22)	5 (19)	1 (0)	3 (4)	—	—	53 (104)	22 (36)
言語聴覚 専攻科	40	—	—	—	—	—	—	29 (32)	—	29 (32)	23 (28)
保健医療学 研究科	6	—	—	—	—	—	—	—	3 (3)	3 (3)	3 (3)
合 計	146	96 (113)	113 (136)	44 (80)	31 (48)	1 (1)	22 (14)	29 (32)	3 (3)	339 (427)	127 (151)

(第2志望含む) () は昨年度数

2. 国家試験の合格者数の状況

学部では専任教員による国家試験対策授業、卒業生による対策講座やグループ指導、学内模擬試験、外部講師による対策セミナー、各専任教員による個別指導等を実施するなど、両専攻共に組織的な取り組みと各教員におけるきめ細やかな対応を実施したが、両専攻ともに目標とする合格率には至らなかった。両専攻で結果を分析の上、より有効な方策を共有しながら、令和3(2021)年度は共に全国平均を上回るだけでなく受験生全員の合格を達成できるよう対策を検討していく必要がある。言語聴覚専攻科においては、OCR時代から20年連続合格率第一位を達成した。

(1) OHSU の合格状況

	受験者数	合格者数	合 格 率
理学療法士	50名	40名	80%
作業療法士	14名	11名	78.6%
言語聴覚士	25名	25名	100%

(2) 全国の合格状況

	受験者数	合格者数	合 格 率
理学療法士	11,946名	9,434名	79.0%
作業療法士	5,549名	4,510名	81.3%
言語聴覚士	2,546名	1,766名	69.4%

3. 就職の状況

求人状況は理学療法士 2,102 件、作業療法士 2,139 件、言語聴覚士 1,292 件であった。

各専攻、専攻科ともに、就職セミナーや面接指導を実施した。また、専任教員が求人票に基づき学生指導を行うと共に臨床現場におけるネットワークを最大限活用し就職支援を行った結果、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い求人数は昨年度よりも減少したが、下記の通りの成果を得た。

	卒業者数	国家試験 合格者数	専任職としての就職者数	
			資格に係る業	その他
理学療法学専攻	50 名	40 名	40 名	0
作業療法学専攻	14 名	11 名	11 名	0
言語聴覚専攻科	25 名	25 名	25 名	0

4. 教育指導

本学では、令和 2 (2020) 年から新型コロナウイルス感染症対策の一つとして本格的に遠隔講義（オンラインやオンデマンド）を取り入れた。令和 3 年 (2021) 度以降についても教育上必要があり、かつ十分な教育効果をあげることができると教学委員会が認めた科目については、コロナ対策以外でも恒常的に取り入れていくことになっている。

また、学部については、令和 2 (2020) 年度から科目再判定試験においても合格点に達しない学生を対象に実施している継続フォロー回数に上限を設けるとともに、不合格科目数による留年を定める等の進級制度の変更を行った。結果、長期フォロー対象者は減少したが、いまだ継続フォローを要する学生が一定数存在しているため、フォロー制度の効果的な活用方法について教学委員会で再検討していく予定である。成績低迷者については担任と学習支援塾や学生相談室が連携しサポートを行ったが、学習支援塾については、コロナ禍による影響で開始が遅れ十分な活用ができなかった。第 4 クォーターよりオンラインでの指導を開始したところ、支援員が対応可能な時間枠が増加し学生の希望日時に合わせやすくなった利点もあったことから、令和 3 (2021) 年も従来の対面指導に加え、オンラインでの指導を継続予定である。

言語聴覚専攻科、保健医療学研究科においても、学部同様に遠隔講義を取り入れた。

言語聴覚専攻科については、通常授業時の細やかな学生指導に加え、国家試験対策として学習低迷者の個々の特徴を捉え、教員が同じ方針のもとにグループ指導や個別指導を行い、令和 2 年 (2020) 年度の国家試験も合格率 100%を達成した。

5. 施設・設備

- ・ 2 号館・喫煙室を教材作成室へ改修する工事を行った。

6. 自己点検・評価

「自己点検・評価報告書」で示している各基準項目の「改善・向上方策」の継続課題について、担当委員会・部署にて内容を精査し実行に移していくことで PDCA サイクルに則り、諸活動を実施した。さらには、令和 4 (2022) 年度の外部認証評価再受審へ向けて準備を開始した。

☆ 福田学園校友会の活動状況

1. 理事会及び部会の開催

①理事会

理事会は5回開催され、研修活動、在校生支援活動、総会準備、予算案等について積極的な議論がなされた。本年はWebを使用した理事会となった。

②部会研修会

新型コロナウイルスの影響を受け、校友会活動が大幅に制限された中、Webを使い、PT部会研修会を実施した。

PT部会研修会「アメリカにおける理学療法教育制度、労働環境の違い」

講師：理学療法士 宋 一成 先生（そん いるそん）アメリカ在住

2. 福田学園校友会研修会実施について

PT部会研修会のみ実施したが、他の研修会は企画したものの実施できなかった。

総会も開催できず、理事会で予算等を承認した。

3. 在校生・学校支援について

- ・学園に新型コロナ対策費用として、300万円を寄附した。
- ・在校生支援として、図書館に約10万円分の図書を寄贈した。
- ・会員表彰を実施した。OHSU OT2期生 寺田 萌さん
(認知神経リハビリテーション学会 最優秀賞受賞)
- ・式典では、卒業生に校友会賞を贈った。

★ 福田学園

1. 理事、監事、評議員について

理事	選出母体		評議員	選出母体			
1号	設置する学校の長 (1名)	福田 益和	1号	学園職員 (6~8名)	福田 益和		
2号	評議員会 (2名)	宮崎 安弘			佐藤 誠		
		佐藤 誠			伊東 和幸		
3号	学識経験者 (4名)	山本 一仁			石倉 隆		
		清野 佳紀			島 雅人		
		渡邊眞一郎			越智 久雄		
		福田 眞			宗林 功		
監事		水島 洋			2号	卒業生 (3~4名)	今西 永兒
		村岡 かほる					高山 厚
							村野 智子
		井口 知也					
			3号	学識経験者 (6~8名)			宮崎 安弘
		山本 一仁					
		清野 佳紀					
		福田 眞					
		福田 祐子					
		岡山 保美					
		増原 建作					
		高橋 弘樹					

2. 教職員の状況

		2021年5月1日 現在	2020年5月1日 現在	増 減
OCT教員	専任教員	16	16	0
	非常勤講師	77	78	-1
	(小 計)	93	94	-1
OCR教員	専任教員	15	14	+1
	非常勤講師	80	75	+5
	(小 計)	95	89	+6
OHSU教員	専任教員	34	32	+2
	非常勤講師	175	177	-2
	(小 計)	209	209	0
事務局	専任事務職員	31	29	+2
	業務委託派遣事務職員	1	1	0
	(小 計)	32	30	+2
合 計	専任教職員	96	91	+5
	講師・派遣	333	331	+2
	(合 計)	429	422	+7

3. 経費削減対策について

ここ数年で、学園のサーバーのクラウド化、及びネット回線及び光電話の契約先の変更による経費削減学園全体の複合機、コピー機、プリンターの全台入替えによる経費削減、また、空調機の更新、及びデマンドコントローラーの更新及び電力使用量の監視、1号館照明器具のLED化を行い電気料金の削減を継続して行った。

4. 学園各号館の施設・設備改修計画について

各号館の建物附属設備・機器等について、改修及び入替について緊急性や費用を鑑み、年次で実行に移すための改修入替計画において、令和2(2020)年度は2号館喫煙室を教材作成室へ改修及び6号館の外壁タイル改修(Ⅱ期)を実施した。さらに、1号館電話設備の老朽化に伴い、電話機器一式を更新した。

5. 自己点検評価、学校関係者評価、第三者機関評価及び評価結果公表について

OHSUにおいては、平成27(2015)年度に「日本高等教育評価機構」による大学認証評価(第三者評価)を受診し、無事に機構が定める大学評価基準に適合しているとの認定を受けている。

OCT、OCRでは令和元(2019)年度においても、職業実践専門課程の認定(申請条件)の中で、文部科学省が策定したガイドラインに基づき、学内における自己点検・自己評価、また、外部関係者を委員とした学校関係者評価を行うとともに、その結果をOCT、OCRホームページ上に公開した。

6. 「教育の質の確保と向上」に向けた5カ年計画の策定について

経済状況の変化やグローバル化、就労に対する価値観の多様化、少子化等、学校を取り巻く環境は、日々が大きく変化している。この様な大転換期においては、安定した学生数の確保のため、更なる信頼性の向上が求められ、特に教育の質の確保と向上に向けた取組みを行った。このため、引き続き令和2(2020)年度もOHSU、OCT、OCRにおいては、教育の質の確保と向上に対する5カ年計画(「中期展望」、「期間中の取組み」)を策定の上、目標設定等具体的に取り組み、3校とも「教育機材、機器備品の購入、校舎、建物附属設備の改修」については、中期計画の項目に必ず盛り込むこととした。

7. 教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)の指定について

厚生労働省が主幹となり、非正規雇用労働者である若者等がキャリアアップ・キャリアチェンジして安定的に働くことができるよう教育訓練給付が拡充された『専門実践教育訓練』において、OCRでは、令和2(2020)年度に理学療法学科(3年制)において再指定を受けることができた。

OCTでは、令和2(2020)年度に新規指定から継続して2度目の再指定を受けることができた。

8. ネット出願の導入について

OCTに於いては、「キャリア教育共済協同組合」のネット出願事業の先行的取組みを継続利用し、平成28(2016)年度41名、平成29(2017)年度53名、平成30(2018)年度93名、令和元(2019)年度95名、令和2(2020)年度94名のネット出願となった。前年度までは、年明け1月以降に大学からの進路変更者や併願組による顕著な傾向が出ていたが、今年度はその傾向がそれほど強くなく出願開始当初からネット出願があった。その事からも今後、文科省が推進する『高大接続改革』にも対応したネット出願のシステム内容についても注視して行く必要がある。

OHSU（学部・ST）およびOCRは、全ての入試をネット出願にて実施した。文科省の方針では、令和5年（2023）年度入試にむけて調査書の完全電子化を目指すとしており、今後eポートフォリオの普及等と相まって、高校生・社会人の隔てなくネットでの出願が加速すると見込まれる。

参考資料

★大阪工業技術専門学校

<学科別学生数の状況>

（令和3（2021）年5月1日現在）

学 科 名	修業年数	1学年	2学年	在籍数	増減	定 員	在籍率 (%)
建築学科	2年	118	123	241	-5	240	100%
建築設計学科	2年	31	26	57	+3	60	95%
設備環境デザイン学科	2年	0	1	1	-7		
大工技能学科	2年	42	28	70	+2	80	88%
インテリアデザイン学科	2年	37	40	77	+1	80	96%
ロボット・機械学科	2年	40	42	82	-8	80	103%
建築士専科	1年	31	0	31	+3	50	62%
I 部 小 計		299	260	559	-11	590	95%
増 減		-26	+15	-11			
建築学科Ⅱ部	2年	62	43	105	+17	100	105%
フレックス建築学科	2年	2	13	15	-5	80	19%
Ⅱ 部 小 計		64	56	120	+12	180	67%
増 減		+11	+1	+12			
合 計		363	316	679	+1	770	88%
増 減		-15	+16	+1			

※設備環境デザイン学科は、募集停止中のため在席率を算出しおりません。

その為、I部小計と合計の在席率は、設備環境デザイン学科の在籍数を含まず算出しております。

★大阪リハビリテーション専門学校

<学科別学生数の状況>

（令和3（2021）年5月1日現在）

学科名	修業年数	1学年	2学年	3学年	4年生	在籍者数	定 員	在籍率 (%)
理学療法学科	3年	43	24	24	—	91	120	75.8
作業療法学科	3年	36	29	35	—	100	120	83.3
合 計		79	53	59	—	191	240	79.6

★大阪保健医療大学

＜学科－専攻、専攻科別学生数の状況＞

(令和3(2021)年5月1日現在)

専攻名	修業 年数	1学年	2学年	3学年	4年生	在籍者数	定員	在籍率 (%)
理学療法学専攻	4年	81	86	65	75	307	280	109.6
作業療法学専攻	4年	23	35	35	22	115	120	95.8
学部小計		104	121	100	97	422	400	105.5
保健医療学研究科	2年	3	4	—	—	7	12	58.3
言語聴覚専攻科	2年	24	26	—	—	50	80	62.5
合計		131	151	100	97	479	492	97.4